



福島南ロータリークラブ

基本方針: 原点を見つめ、みんなのための奉仕を

事務局/〒960-8151 福島市太平寺字通吹 6-2 ザ・36・メイファイブ 1F2号室
tel. 024-546-3793 fax. 024-545-7878
例会場/サンパレス福島 〒960-8101 福島市上町 4-30
tel. 024-523-3811(代) fax. 024-523-0375
HP アドレス <http://www.inaka.ne.jp/f-southrotary/index.html>



- 会長：紺野仁昭 ■幹事：佐久間 功
- 会報委員長：松崎弘昭 ■副委員長：佐藤朋也
- 委員：斎藤善重 斎藤信男 佐々木孝光 丹治洋子

第19回例会

平成24年11月21日(水) サンパレス福島

■会員/67名 ■出席/41名 ■出席率/61.19% ■メイクアップ/26名 ■修正/67名 ■修正率/100%

本日のプログラム

- 1 開会点鐘
- 2 来訪者紹介と会長挨拶
- 3 エコキャップ回収報告
- 4 ゲストスピーチ
三富 邦基 地区 RC 財団副委員長
- 6 閉会点鐘



会員の広場 《散策》

左の写真は、どちらも11月24日に撮影したものです。秋といえば紅葉が定番ですが、冬に咲く桜もなかなか風流です。もう少しで満開になると思われまます。

さて、この会員の広場では会員の皆さんの身近な出来事などの投稿を募集しています。投稿いただいた方には、漏れなく写真の紅葉と冬桜の名勝地をお教えいたしますので多くの投稿をお待ちしております。(会報委員会)

今日の一面記事 (11/21 河北新報)

福島第1原発事故で、福島県は19日、東京電力に対する第1、第2両原発の核燃料税の課税期間を更新せず、現期間が終了する12月末で課税を打ち切る方針を明らかにした。原発立地自治体の中で課税を廃止するのは初めて。

◆会長あいさつ◆

紺野 仁昭 会長



皆様こんにちは。
本日のお客様をご紹介します。
国際ロータリー第2530地区ロータリー財団委員会副委員長、三富邦基様です。

それでは第19回例会のご挨拶を申し上げます。
先週のエコキャップ回収は、民報新聞にも掲載されました。宍戸清和国際奉仕委員長、高橋勇雄新世代委員長をはじめ、会員の皆様、ご協力ありがとうございました。

次に、11月17日18日両日にわたり、国際ロータリー第2530地区の地区大会が開催されました。

第1日目には会長幹事会及び国際ロータリー会長代理 渡辺守人様ご夫妻の歓迎晩餐会が盛大に行われました。

第2日目は、大会本会議が開催され、当クラブは米山記念奨学会寄付総額第1位という、輝かしい表彰をいただきました。そのほかにもクラブとして、会員一人当たりの平均寄付額第2位、年次寄付恒久基金第3位、会員一人当たり年次寄付額第7位の各

表彰状と盾及び会員数維持達成クラブの表彰状をいただきに参りました。米山記念奨学会理事長板橋敏雄様からも感謝状をいただきました。会場入口に盾と感謝状を置きましたので、ご覧下さい。個人の表彰もたくさんいただいております。個人の表彰につきましては、後日例会にてお渡ししたいと思います。
朝早くから、また、寒い中、出席頂きました皆様、ありがとうございました。地区68クラブの中で出席者数が一番多かったこと、福島南ロータリークラブのすばらしさを感じて参りました。

なお、地区大会の詳細につきましては次週、大野会長エレクトから報告いただく予定であります。大野会長エレクト、よろしくお願いいたします。

さて、本日は先にご紹介いたしました三富邦基様のスピーチをいただきます。よろしくお願いいたします。

最後に、国際ロータリー第2770地区八潮ロータリークラブ様より、田中R I会長の就任記念バナーを会長代理晩餐会にて大橋パストガバナーが戴きました。当クラブでお掲示させて頂き、また、当クラブのバナーをお送りすることといたしました。

これで会長挨拶といたします。

◆エコキャップ回収報告◆

高橋 勇雄 新世代委員長



11月14日(水) 福島成蹊高校において、同校IACと大笹生養護学校の協力を得て、エコキャップ614.4キログラム(26万4,192個)を福島民友新聞社に寄託しました。内訳は、約200キログラムが福島南RC、400キログラムがIACからでした。

ワクチンは、2キログラム(800個)で1ポリオワクチン分に相当しますので、今回の寄託により330人分のポリオワクチンが確保できたこととなります。金額に換算しますと、20円×330個つまり6,600円となります。

お金を寄付した方がよいという意見や、輸送費の方が高いという意見をいただきますが、キャップを捨てれば環境汚染となりますので、気持と行動が大事と考えます。今後ともご協力をよろしくお願い致します。

◆ゲストスピーチ◆

地区財団副委員長 三富 邦基 様



2013年7月1日、ロータリー財団は、全ロータリー地区に新しい補助金モデル「未来の夢」を導入します。未来の夢では、人道的プロジェクト、奨学金、職業

研修といった、従来からの主な奉仕の機会が残される一方で、この新モデルによってプログラムが簡素化され、クラブと地区がより持続可能性の高いプロジェクトを実施できるようになります。これまでは、大規模で影響力の高い活動に充てられた財団の補助金は、プログラムの年次予算の20%にすぎませんでした。「未来の夢」では、この割合を80%に高めることを目標としています。この変更は、ロータリーが国際開発や人道的奉仕におけるリーダーとなることを促進します。新しい補助金モデルでは、ポリオ・プラスとロータリー平和フェローシップを除き、これまで12種類あった補助金が3種類になり、新地区補助金、グローバル補助金、パッケージグラント補助金となります。それぞれの具体例および申請方法等は、12月7日に開催されます地区ロータリー財団セミナーで詳しく説明いたします。よく、ロータリーの規約や制度が度々改正変更があるが、なぜかとの質問を受けます。

ロータリーは発足106年を経過しています。100年続く企業は3%であります。団体も同じく100年続くのは3%であります。

その3%はその時代に合わせて改革を行っているのです。その時代時代に、変革・改革をできない団体は、その時点で淘汰されるのです。ロータリーも150年、200年と改革しながら進んでいくものと思っております。なお、年次寄付100ドル以上、恒久基金1000ドル1名以上の寄付のご協力をお願いいたします。

◆本日のランチより◆



今日は、季節の旬の食材としてイクラが出されましたが、そのイクラの由来についてwikipediaで調べてみました。

「イクラ」の語源はロシア語で「魚卵」「小さくて粒々したもの」という意味である。ただし、ロシア語で「イクラ」はサケに限らず魚卵であればキャビアもたらこもすべてイクラである。日本では、サケ科の卵をばらした物のみを指すが、サケの卵は、ロシアでは「赤いイクラ」(красная икра クラスナヤ・イクラ)と呼ばれる。一方、「黒いイクラ」(чёрная икра チョールナヤ・イクラ)はキャビアのことである。もともと日本ではサケの卵巣から取り出したもの(筋子)と粒状にばらしたものを(イクラ)を区別する名称がなかったが、あるときロシア人が粒状にばらしたサケの卵を「イクラ」と呼んでいるのを見た日本人がこれを「イクラ」と呼ぶものと思ったことに由来するとされ、実際、筋子と区別するのに都合がよかったために「イクラ」と呼ばれるようになったとされる。

今月・来月のプログラム

- 11月28日(水) 地区大会報告
- 12月5日(水) ガバナー補佐訪問
12月誕生者お祝い
「ロータリーの友」読みどころ
- 12月12日(水) クラブ年次総会
次年度役員理事発表
第7回理事会(夜間)
- 12月19日(水) 家族クリスマス忘年会(夜間例会)
- 12月26日(水) 年末特別休会

一編集後記一

三富氏からいただいたステッカー「大丈夫 しんばいするな なんとかなる」は、一休さんの有名な格言です。緊張しすぎや、不安、心配で心の中がいっぱいの状態では、良い答も行動する勇気も湧いてこない。「大丈夫・しんばいするな・なんとかなる」という楽観的な積極性を常に持ち続けることで、人生の荒波を乗り切れる。そんなところでしょうか。(さとう)